

入選作品紹介

※佳作の上映はありません

しずおか部門

「しずおか」を題材にした作品が対象

静岡大賞

池田君とぼく

制作：木下 洋一

1989年。小3の僕は年下の池田君と友達になる。池田君のご両親は社交ダンスの先生で、僕も一緒にダンスを習うことに。社交ダンスはとても楽しかったが、進学をきっかけにダンスをやめ、池田君とも疎遠になった。2024年。僕は娘と共に31年ぶりに社交ダンスを習い始めた。そして池田君と運命的な再会を果たす。

市長賞

青の狭間

制作：田内 芙蓉子

故郷の海に見守られながら思いを抱える、高校生。磯の香りが記憶をほどこき、名づけようのない感情が胸で波立つ。未来の自分へ紡いだ言葉は波音に消え、迷いも痛みも海が優しく包み込む。やがて今と未来がそっと重なり、地平線の向こうから穏やかな風が吹く。青の狭間で生まれた、明日へと向かう静かな決意。

竹千代賞

梅まつりが始まるよ！ 小島の梅のよさを伝えよう

制作：静岡市立清水小島小学校5年1組

クラスみんなで梅を収穫し梅料理を作ったり、梅干し作りをしたりするうちに「小島の梅のよさをみんなに知らせたい」「お世話になった梅農家さんにお礼がしたい」と思いをもって始まった『梅プロジェクト』。クラスみんなが大好きになった『梅』のよさがたくさん詰まった『梅まつり』までの準備の様子をCMにしました。

奨励賞

静岡縣護國神社 管絃祭

制作：村田 義文

神楽の一振り一拍で祈りが形になる。夜に響く音とリズム。その瞬間を凝縮した1分の映像作品です。

しずおか部門全入選作品は
公式 Web ページから
ご覧いただけます。
(2月末より一般公開開始)



しずおか部門

テーマ及び内容ともに自由

コンペティション部門

市長賞

高木博士の失敗作

制作：山口 改

超高性能ロボットを発明した高木博士取材する記者。しかし高木博士には、ある野望があった……。

竹千代賞

中国内モンゴル 伝統とともに生きる ～美しき素朴の地～

制作：武井 明

十年の時を経て、16歳の私は再び訪れ、ドキュメンタリーを撮影することを決意した。もうひとつの故郷—中国内モンゴル。そこで目にしたのは、人々のあいだで静かに紡がれていく日常だった。大自然に囲まれ、家畜と生きて、自然の循環の一部として暮らす人々。この土地の人々が守り続けてきた、便利さの先にあるものは。

奨励賞

〇月×日

制作：川島 祐弥

主人公は家にある古いDVテープを見つける。そこに映っていたのは、とある姉弟のもう戻らない過去の記憶。



佳作

smash

制作：石川 ユウマ

1分半の映像作品「smash」。向かい合う二人の男が無言で争う。乾いた「ドン」という衝撃で空き瓶と空き缶が倒れ、その瞬間からBGMが流れ出す。衝突と連鎖する物音、身体の動きがテンポを生み、最後は静寂を音楽が埋めていく。



佳作

星にゆく

制作：井出 みずき

屋上から繁華街で過ごす男女を双眼鏡で見下ろす夏代子。望遠鏡で夜空を見上げる同僚の翔。二人の視点と価値観が交わる一夜のお話。



佳作

それでも紙の本が好き

制作：上村 雅代

自宅で出版社を営む千紗子のもとに新刊の東が届く。本に駆け寄る娘の葵。二人は茶紙を剥がし、刷りたての本の匂いを深く吸い込む。傍目には、ただ本に没頭しているようにしか見えない読書の瞬間に、想像を超えるリアルな世界が広がっている。AI時代の今こそ届けたい、「紙の本」の温もりと存在感を描いた映画。

コンペティション部門
全入選作品は
公式 Web ページから
ご覧いただけます。
(2月末より一般公開開始)



コンペティション部門

しずおかショートフィルムコンテスト
令和8年度も開催を予定しています！

詳細は決定次第、静岡市ホームページにて
お知らせいたします。

※開催の決定は令和8年度の静岡市予算の議決状況によります。
※令和7年度コンテストと規程等が異なる場合がございます。



佳作

戯作者 恋川春町

制作：せいりょう

大河ドラマ「べらぼう」に登場した恋川春町に着想を得た作品です。藩の家老と戯作者の顔を持つ彼は、民のために筆を刃とし、笑いで世を風刺します。だが幕府の弾圧を受け喚ばれると、藩を守り義を貫くため沈黙を選び、自ら命を絶つことで最期の抵抗を示した一人の武士の生涯を描きました。